

福居



会 報

第 24 号

昭和61年 6月 5日 発行

発 行 所

福井商工会議所青年部会

発行責任者

天 野 吉 壹

将来の方向性は…



天 野 吉 壹

青年部の将来に対する方向は、青年部自身が政策集団化することであると考えます。しかし現在はその為は何を、どの様にするか解からない手さぐりの状態であると思います。しかしそれはそれでも現在ではかまわないと考えています。その方向さえ見失わないようにすれば良いことです。

青年部メンバーは、数々の問題を掘りおこし、その解決する方法を研修の場よりマスターしてもらわねばならないと考えています。そして何よりもメンバーが個人的な情報を発振し、揺れてくれる事を希望しています。

個人の揺れは、周辺の人に影響を与えてゆきます。揺れが限界点に達した時、個人の揺れは集団を引き込む状況を作り出します。又、集団の揺れは振幅も大きく限界点

に對した時に組織全体を引き込み大きな個性的動きをえがき出します。

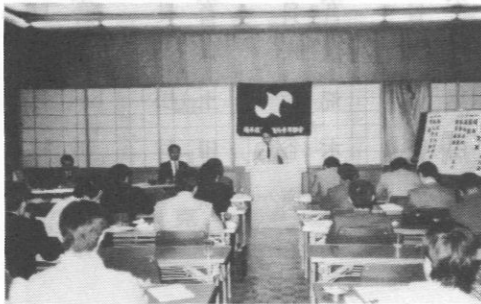
以上のように一メンバーより出たものが組織を動かすためには、常に対話を前提としてメンバー間の交流を深めて行かなければなりません。さらに委員会に對する私の要望は、委員会の密度を高めて欲しい事です。運営方針やターゲットを明確にする事で、良い方向に向かうと思えますし、委員会は「必要な時に必要な人間」を事業を通じて育んでもらいたいと思っています。



昭和六十一年度 定期総会開かれる

昭和六十一年度の定期総会が四月二十五日(金)、福井商工会館五〇一号室で開かれた。

淡島会長挨拶に続き、議案審議が行なわれ、①昭和六〇年度事業決算報告の件 ②昭和六一年度事業計画案・予算案の件 ③役員選出の件 ④規約改正の件について承認を受けた。今年度の会長には天野吉壹君が就任した。その他の役員は次頁の役員名簿組織図参照議案審議のあと、新役員の所信発表、新入会員紹介が行われた。



大野商工会議所 青年部会が設立される



大野商工会議所青年部会の設立総会が四月二十三日午後、越前信用金庫4階大ホールで開かれ、福井からは淡島会長(当時)以下4名が参加した。

大野商工会議所青年部会は地域経済のリーダートとして、人格、教養、及び経営能力を高め、企業の近代化を図ると共に会議所活動に寄与することを目的として設立された。

設立総会ではまず、設立に当たられた鳥山泰弘氏が設立までの経過を報告、つづいて宇野大野商工会議所会頭の挨拶がありました。その後、新役員の選出が行われ、初代会長に兼井隆氏、副会長には天谷光治、鳥山泰弘の両氏が選出されました。最後に来賓祝辞があり、大野商工会議所青年部がスタートを切りました。

昭和61年度 事業計画

- ◎ 5月29日 県商青連定期総会会員大会
 主管 勝山商工会議所青年部
 - 10日 親睦委員会
 家族大会の下見
 おまつり委員会
 - 11日 研修委員会
 新会員オリエンテーション
 ★会員委員会…毎月第1木曜日
 ★広報委員会…毎月第1金曜日
 ★ヘルス委員会…ヒアスポーツで毎週木曜日6時より青年部の日
 - ◎ 6月13日 青年部近畿地区ブロック部会長会議
 15日 ひかりの村 ソフトボール大会
 ★運営システム研究 (総務)
 - ◎ 7月13日 県商青連スポーツ大会 (鯖江)
 ★J Cとの交流会 (総務)
 - ◎ 8月1日 フェニックスまつり・おみこしコンクール
 26日 青年部近畿地区ブロック大会
 ◎ 9月 ★運営システム中間報告 (総務)
 - ◎ 10月18日 青年部全国大会 (福島)
 ★仮決算 (総務)
 - ◎ 11月 ★運営システム研究 (総務)
 - ◎ 12月 市長と語る会
 ★懇親会 (総務)
 - ◎ 1月 ★来年度予算案方針 (総務)
 - ◎ 2月 ★J Cとの交流会 (総務)
 - ◎ 3月 市民の広場
 ★決算検討会 (総務)
- 【夏休み】 家族大会
 【秋】 登山、健康管理セミナー

みなさんよろしく!!
 —新入会員プロフィール—

野路 一美
 昭和二十二年四月十五日生
 北川瀝青工業(株)福井営業所
 福井市高木町五十一
 電話 五四一三六六

柴田 治是
 昭和二十二年三月十二日生
 福井県農業協同組合中央会
 福井市大手三丁目一番十八号
 電話 二二一三二一

長谷川 憲二
 昭和二十五年八月二十四日生
 三優社工業(株)
 福井市豊岡一丁目二六
 電話 二二四七七九

大須賀 広美
 昭和二十五年二月二日生
 大須賀建設株式会社
 福井市花堂東一丁目四番四号
 電話 三五八八八

吉村 一郎
 昭和二十五年八月二十四日生
 司株式会社
 福井市大手一丁目二五
 電話 二六一一三〇

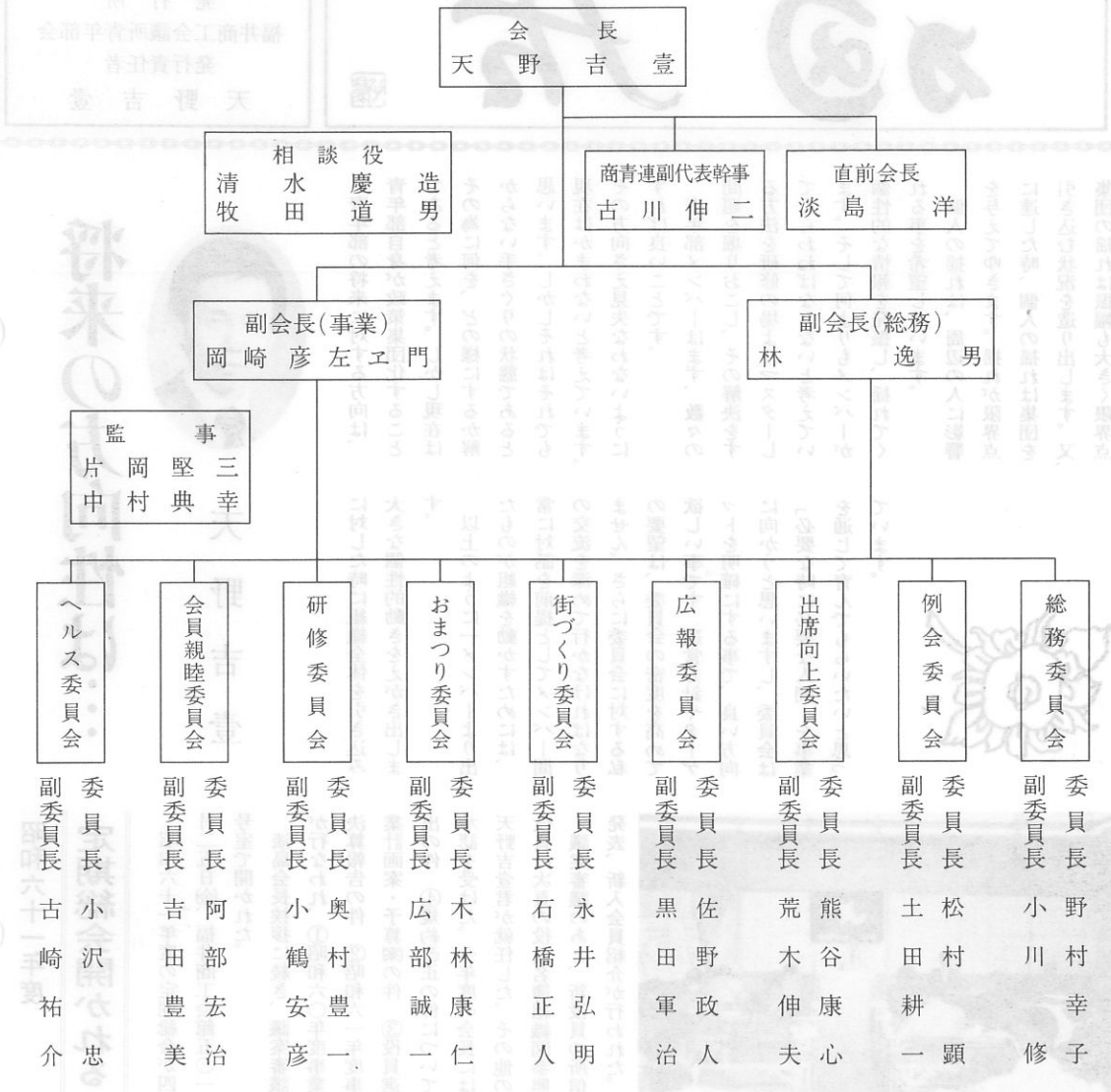
藤井 雅喜
 昭和二十二年十一月二十四日生
 働だるま屋
 福井市中央一丁目一八
 電話 二七〇一一

田谷 仁一
 昭和二十五年九月二十九日生
 株式会社 タヤコ
 福井市問屋四丁目一〇五
 電話 二二一〇八三

山口 克己
 昭和二十五年一月十二日生
 働北陸銀行 福井支店
 福井市中央一丁目七十五
 電話 二四一五五五

山浦 降幸
 昭和二十二年十月二十二日生

昭和61年度 福井商工会議所青年部会 役員名簿組織図



熊谷行政書士事務所
訴訟記録謄写 熊谷謄写館
 福井市春山1丁目2-2 ☎22-4243

業務内容
 各種契約・会社法人設立・訴訟準備・損害調査
 債権回収・債務整理・戸籍帰化相続関係調査相談
 その他官公署に対する各種許認可申請手続代行

熊谷行政書士事務所

昭和六十一年度 福井県商工会議所 連合会役員(福井)

理事 天野 吉 壹
 〃 岡崎 彦左エ門
 監事 淡島 洋
 相談役 古川 伸 二

福井県商工会議所 青年部連合会 代議員名簿(福井)

天野 吉 壹
 岡崎 彦左エ門
 林 逸 男
 松村 康 心
 熊谷 康 仁
 佐野 政 人
 永井 弘 明
 木村 康 一
 奥村 豊 一
 阿部 宏 治
 小沢 忠 洋
 淡島 洋

九十九橋完成記念 武者行列に青年部参加

福井市の九十九橋の完成を記念して武者行列が市観光協会の主催で五月十一日午後三時から、市内の目抜き通りで繰り広げられた。



行列には、福井地区消防音楽隊、仁愛女子高校の鼓笛隊を先頭に約六百人に参加した。中川知事が織田信長、八木商工会議所会頭が前田利家に扮して馬上へ。我等青年部も甲冑姿で行列に加わった。一行は大勢の市民の見守る中、呉服町通りから片町を経て北之庄通りへ。紫田神社で中川知事ら三氏から青年部淡島、古川、天野の三人へとバトンタッチ、三人は馬に跨りいざ一路最終地点の県庁まで行進、約二時間のコースを無事到着、重役を果し、華やかな戦国時代風行列のパレードの幕を閉じた。

当青年部会員 山本君

幼い命救う!!

奄美大島で人命救助

当青年部会の山本君が旅行先の奄美大島で川に落ちた幼女を助け両親や地元の人から感謝され近く鹿児島県警名瀬署から表彰された。

詳細を福井新聞より抜粋した。

◎山本さんは福井銀行木田支店が主催した八日から十日まで二泊三日で沖縄県石垣島と鹿児島県奄美大島方面へ出かけた。

二日目の九日午後六時ごろ、奄美大島の名瀬市に到着。食事までに時間があつたので散歩に出た。同二十分ごろ同市内を流れる幅五、五メートルの屋仁川にかかる港橋近くを通りかかったところ「子供が落ちた。だれか助けて」と女の人が叫ぶのを聞いた。急いで川を見ると、橋の下へ流れてくる女の子を見つけた。

山本さんは中学時代、ボイスカウト活動に熱心で、救助法を学び、泳ぎにも自信があつたので、とっさに上着と靴を脱いで川に飛び込んだ。腰の上まで水につかり

ながらも助け上げ、岸で急いで水を吐かせると、女の子は意識を取り戻して大声で泣きだして一安心。山本さんは、名前を告げずにホテルに帰ったが、一緒に旅行に行つた仲間が、現地の警察に知らせ、二歳の女の子の両親がお礼を言いに来た。

地元紙にこの人命救助が大きく報道されたため、三日目の島内観光では、至るところで感謝の声。ハブセンターでは「大島の島民として感謝します」と所長から特別にハブ酒のお土産までもらつたといい。

山本さんは「女の子を見つけた時は、無我無中で飛び込んだ。二十五年ぶりなので救助法を思い出せるか不安だったが体が覚えていた。この旅行は最初、社長が行く予定だったが、急に都合でかわつたおかげでよい思い出ができた」と話していた。以上が福井新聞掲載の記事である。山本君の勇氣ある、愛ある素晴らしい行動を心から称えようではありませんか。

(福井新聞取材写真)

奄美大島で人命救助

旅行中に山本さん(福井)

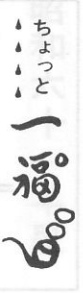


山本勝郎さん

川に落ちた幼女救う 現地の警察近く表彰

福井が奄美大島に旅行中、八日午後六時ごろ、奄美大島の名瀬市に到着。食事までに時間があつたので散歩に出た。同二十分ごろ同市内を流れる幅五、五メートルの屋仁川にかかる港橋近くを通りかかったところ「子供が落ちた。だれか助けて」と女の人が叫ぶのを聞いた。急いで川を見ると、橋の下へ流れてくる女の子を見つけた。

山本さんは「女の子を見つけた時は、無我無中で飛び込んだ。二十五年ぶりなので救助法を思い出せるか不安だったが体が覚えていた。この旅行は最初、社長が行く予定だったが、急に都合でかわつたおかげでよい思い出ができた」と話していた。以上が福井新聞掲載の記事である。山本君の勇氣ある、愛ある素晴らしい行動を心から称えようではありませんか。



ちよっと一福

過日行われた広報委員会で「ちよっと一福」のコーナーを継続する事が決つた。しかし広報委員活動のスタートがやや遅れた事もあり、各コーナーの原稿回収が捗らず、べ切が迫り焦燥の感があつた。「ちよっと一福」の原稿もまだである。

原稿の整理をしながら「一服」について考えた。人間、一日のうち、肉体的に、精神的に本当に集中出来るのは何時間だろうか、又、本当の意味での「一服」とは何だろうか……と。単純に考えれば例えは勤務中に忙しい合間の一杯のお茶、あるいはたばこ、が「一服」だろう、しかし人それぞれで会社では何をしても一服した気分になれない人もいるだろう。

ちよっと一服のつもりでペンを執りましたが皮肉にもやや疲れませんでした。

会員の皆さん、身近かな出来事近頃思ふ事、随筆、俳句等、なんでも結構です。原稿の依頼がありましたら寄稿の程よろしくお願ひ致します。